

# 八幡西区

●鳴水市民センター

●八児市民センター

●星ヶ丘市民センター

## 市民センターにおける生涯学習事業

|   |      |       |          |
|---|------|-------|----------|
| 区 | 八幡西区 | センター名 | 鳴水市民センター |
|---|------|-------|----------|

### 事業・活動名

わがまち探検Ⅱ～バンコを作ってまちに癒しのスポットを!!～

### 事業・活動の背景とねらい・目的

町内会自治会への加入世帯が減少し、地域コミュニティが希薄になってきている。子どもたちが地域で活動する機会や多世代交流の機会も減少している。  
将来の地域づくりの担い手となる子どもたちの育ちに地域全体に関わり、地域の教育力向上につなげることで、子どもたちが自分たちのまちを知り、まちづくりの一端に関わることで、人やまちに愛情を持ち、シビックプライドを育んでいくことを目指す。

### 取組内容

令和4年度に「未来の種事業」として、九州大学大学院人間環境学研究院と協働して「わがまち探検Ⅰ～鳴水のマップをつくろう!」を実施。子どもたちが地域の大人と一緒にまちあるきを行い、「自慢できるところ」「危険なところ」等を記入した「わがまち鳴水マップ」を作成した。あわせて、2014年にまちに設置されたバンコ（ベンチ）の状態を点検した。

令和5年度は第2弾として、老朽化したバンコを回収し、子どもたちの手によってリニューアルしたバンコを設置することで、まちの新しい癒しスポットをつくりだした。

第1回：子ども・保護者・地域住民・学生で構成する班の編成やまち歩きのコース、バンコの製作スケジュールを話し合って決定した。

第2回：コース別に編成したグループでまち歩きを行い、既存のバンコを点検、現地で住民の方にバンコについてのインタビューも行い、バンコの状態や気づいたこと等の情報を共有した。

第3回：共有した情報を踏まえて、バンコに描くイラストのテーマとデザインを話し合っ  
て決め、模造紙に下絵を描いた。

第4回：バンコの背景カラーを決めて色塗りを行い、下絵を描き写した。

第5回：イラストを描き、バンコ全体に色を塗って仕上げた。バンコ5台を完成させ、それぞれの場所に設置。

第6回：自分たちが制作したバンコまでまち歩きを行い、実際に座ってみるなどして点検し、バンコの状態や気づいたことをまとめて発表。バンコの名前を話し合っ  
て決めた。

※バンコ…木製の腰掛、縁台を指す方言。

### 成果・効果

子どもと保護者、地域住民がバンコのリニューアルという一つの目的を持って、まち歩きやグループワークを行うことで、充実した多世代交流につながった。  
九州大学大学院の教授、学生の専門的な視点からのサポートを得て、子どもたちの自由な発想を生かし、主体性を引き出すことができた。自分たちでアイディアを出し合い、リニューアルしたバンコがまちに設置され、地域の方に利用され大事にされている様子を見ることで、地域をより身近に感じることができ、ひとやまちへの愛情を深めることができた。

### 今後の取組

2014年に設置された10台のバンコのうち、5台は老朽化が激しかったため廃棄した。令和5年度の活動で、残った5台をリニューアルし、1台を新規に製作した。  
令和6年度には4台を新規に製作し、バンコの位置がわかるリーフレットを作成する。  
令和7年度以降は、1年に1回はまち歩きを行い、バンコの見守りと状態の点検を行っていく。

### 他地域展開を見据えた視点・ポイント

子どもたちが自分たちでバンコを製作し、目に見える達成感を得たことで、地域活動への意識づけになった。子どもたちと保護者でバンコを見守り続けていくことが、地域への関心を保ち続けることにつながり、将来の担い手となることが期待できる。  
子どもたちのまち歩きの様子を見聞きした住民が、初めてバンコの存在を知り、バンコ巡りを楽しむようになった。  
このように子どもたちの活動を地域に伝えていくことで、見守る住民を増やし、子ども育ちに関わることの大切さや楽しさ、喜びを実感してもらうことが、地域の教育力の向上につながると考える。

## 活動の様子

第1回 バンコを調べよう まち歩き



第2回 デザインを考えよう



第3回 バンコに絵を描こう 背景塗



第4回 バンコに絵を描こう 仕上げ



第5回 お披露目まち歩き まとめ発表



完成したバンコ



地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

経費の点も課題となっていたので「未来の種」事業のエントリーを勧めた。  
他区や他の自治体の事例等の情報を提供した。

作成者

|                 |               |        |
|-----------------|---------------|--------|
| 八幡西区役所コミュニティ支援課 | 地域・人づくりアドバイザー | 小野田 美律 |
| 〃               | 地域・人づくり担当補佐   | 岡田 亜紀  |

## 市民センターにおける生涯学習事業

|   |      |       |          |
|---|------|-------|----------|
| 区 | 八幡西区 | センター名 | 八児市民センター |
|---|------|-------|----------|

### 事業・活動名

やちごチャレンジ隊プラス～子どもたちをセンターへ～

### 事業・活動の背景とねらい・目的

近年、核家族化、少子化等の社会の変化や地縁的なつながりの希薄化に伴い、家庭の教育力の低下が指摘されて久しい。日常生活での経験や異年齢集団での活動体験の機会も少なくなっており、その影響として子どもたちの自尊感情の低下、粘り強さや集団規範等を身につけることが難しいといったことがあげられている。

「やちごチャレンジ隊」は、例年50人近い子どもたちが参加している。中学生や高校生、地域の大人も多くボランティアとして関わっており、子どもたちの様々な体験の場になっている。

昨年度より異文化に触れることで日本文化への理解を深め国際交流の意識を育てることを重視してきた。あわせて豊かな体験をしてもらうこと、異学年の集団で活動することを通して、地域のつながりを実感し自分自身のよさに気づいてもらうことを目指している。

### 取組内容

各学年1～3人ずつ6班に分け、1年間同じメンバーで活動。中学生もボランティアとして参加。

- 第1回 ・ダンスを踊ろう！ ・カレーを一緒に食べよう！
- 第2回 ・世界のことを知ろう！～外国の先生と楽しく英会話をしてみよう～  
・そうめん流し体験
- 第3回 ・ドッジビーで楽しく遊ぼう！ ・文化祭でのお店体験の話し合い
- 第4回 ・文化祭でのお店体験 ・カレーを一緒に食べよう
- 第5回 ・スウェーデン生まれのスポーツ「クップ」を体験してみよう！  
・カレーを一緒に食べよう
- 第6回 ・「あそぼうさい」で、楽しく防災について学ぼう！  
・うどんとお好みおにぎり、手作りスイーツを一緒に食べよう！
- 第7回 ・来年度のチャレンジ隊について話し合おう！  
・ぜんざいを食べよう！

#### 星ヶ丘市民センター交流事業

- ・第2回で、星ヶ丘市民センターの子どもたちを受け入れて、英会話やそうめん流しなどの体験を通して交流。
- ・希望者を募って10名で星ヶ丘市民センターを訪問し、蒸留実験や手ごね石鹸づくりを体験した。

## 成果・効果

### 全体を通して

高学年の子どもたちが低学年の子どもたちに気配りするような場づくりを工夫したことで、子ども同士の交流が深まり、お互いに助け合ったり思いやったりする気持ちが醸成された。

文化祭でのお店体験では、食材の運搬やお金のやりとりなどの職業体験ができた。毎回の活動後に、地域の方が作った食事を一緒に食べて会話をすることを積み重ねたことで安心感や信頼関係ができていった。

中学生ボランティアの中には不登校の生徒もいて、最初はお客様だったが、徐々に自主的に手伝うようになっていった。他にも学校ではおとなしい生徒が、積極的に前に出て話し合いをリードする姿も見られた。運営を手伝うことで中学生自身も自信をつけていったようだ。このような中学生の姿を見て、小学生も自主的に動くようになっていった。

### 星ヶ丘市民センターとの交流事業

八児での受け入れの際は、50名近い参加者がいたので、ゆっくり交流することができなかった。

星ヶ丘を訪問した際は、一人ひとり自己紹介や、体験後の感想を発表することができ、しっかり交流することができた。

それぞれの講座の進め方の違いに学ぶところも多く、職員にとってもよい体験になった。

## 今後の取組

今年度楽しかった活動、来年度してみたい活動についてアンケートを取った。

最終回では、来年度の講座の企画について、中学生ボランティアにリードしてもらって話し合いを行った。

来年度は、中学生ボランティアと小学生の実行委員を中心として、企画運営を行っていく。

## 他地域展開を見据えた視点・ポイント

多くの子どもたちが市民センターを居場所とし、豊かな体験と自由な活動ができるような工夫を重ねている。

今年度は、メインとなる「チャレンジ隊」の活動に加えて、夏休みの子ども講座（木工・折り紙・ガリ版・布絵手紙・英会話・宿題教室など）や、週2回の卓球教室も実施。

まちづくり協議会と子ども食堂（ヘルスメイト）、八児中学校ボランティア部、市民センタークラブや地域ボランティアなど、協力体制が広がっている。

来年度は、八児小学校・八児中学校ともしっかり話をして、この講座を通して小学校と中学校、地域とをつないでいきたいと考えている。

## 活動の様子

外国の方との交流



昼食はソーメン流し



水でっぽうづくり



交流事業 in 八児市民センター（じゃんけん列車）



交流事業 in 星ヶ丘市民センター（自己紹介）



あそぼうさい お好みおにぎりづくり



## 地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

来年度に向けてのことを考えていた際に、子どもたちにアンケートを行うことや、子どもたちにも企画・運営に参加してもらうことをアドバイスされた。  
最終回に、子どもたちに企画について考えて提案してもらい、来年度のプログラムに取り入れることになった。子どもたちが「自分たちでつくる講座」という意識を持つことが大切だと思った。

## 作成者

八幡西区役所コミュニティ支援課 地域・人づくりアドバイザー 小野田 美律

## 市民センターにおける生涯学習事業

|   |      |       |           |
|---|------|-------|-----------|
| 区 | 八幡西区 | センター名 | 星ヶ丘市民センター |
|---|------|-------|-----------|

### 事業・活動名

星ヶ丘校区☆八児校区交流事業

### 事業・活動の背景とねらい・目的

共働き家庭が多くなった昨今、長期休みは、子どもだけの生活環境になりやすく行動が制限される。地域に子ども達が安全安心に過ごすことができる場、成長を支援する場の創出とともに保護者の負担軽減にもなり得る場が必要である。

他校区を訪問する、他校区児童を受け入れる経験を通して客観的に自分の地域を見つめ気づきを得る。地域の大人に見守られているということを実感し、感謝やシビックプライドを醸成する。また交流を通して視野を広げ、他者とつながる喜びを感じることを目的とする。

### 取組内容

実施①7月24日（水）八児市民センターへ出向き、八児小学校区の児童と交流体験。  
移動手段として公共交通機関を利用し、社会規律を学んだ。  
八児、星ヶ丘で混合班を作り、ゲームやグループワークで交流。多国籍のALTから自国の文化を学び国際理解を深めた。また八児地域ボランティアが準備したおもてなし料理（そうめん流し）で地域の方とも交流。

実施②7月31日（水）星ヶ丘市民センターにて、八児小学校区の児童を受入れ。  
八児、星ヶ丘混合班で活動し、さらに交流を深めた。夏休みの宿題として提出できる手作りアロマ石鹸作りとハーブの種類や蒸留水の作り方を学んだ。星ヶ丘地域ボランティアが準備したカレーで食事。2日間の取り組みをまとめ、レポートを作成。

### 成果・効果

八児市民センターへの訪問では、「お客様」としての受け身な様子が見られたが、混合班での活動を通して距離が近づいた。またALTの胸襟を開いたコミュニケーションにより、物おじせず異文化交流を楽しむことができた。

期間をあまり空けず、熱が冷めないうちに2回目の交流を行ったことでコミュニケーションをさらに密にすることができた。今度は受け入れ側として積極的に参加し、八児の子ども達をリードする様子が見られた。公共交通機関の利用、他市民センターとの交流、異文化交流、夏休みの宿題製作も兼ねるものづくり体験など充実した内容に保護者から感謝の声も多くあった。また2日間のまとめとして記録を作成したことで活動内容を振り返り、学びとして自分の中に落とし込むことができた。

更にこの事業の大きな成果としては、子ども同士の交流に留まらず、地域外の大人との関わりができたことである。子ども達を温かく迎え入れ、交流を積極的に行ってくださった地域ボランティアや講師の姿は、子ども達に多くの大人に見守られているという安心感を与え、地域での居場所を確かめる貴重な機会となった。

### 今後の取組

昨年度は、初めての試みとして若松区島郷市民センターと区を超えた交流事業を実施した。今年度は、区内でも近隣センターとの交流を選択。高校進学の際に再会の可能性があることを考え、今回のつながりが続くことを期待している。また星ヶ丘市民センターは、バス移動が便利のため、次年度以降は沿線上にある上津役校区などを検討している。子どもたちの学びがさらに充実したものになることはもちろん、スタッフの負担軽減を考慮し計画する。また参加した子どもたちが中学生となりボランティアとして戻ってくることを期待している。

### 他地域展開を見据えた視点・ポイント

他校区の子どもを受け入れるため、子どもたちはもちろん、地域ボランティアも入念な準備を行う中で自身の地域を改めて見つめ、誇るところを再発見することができた。また多くの人が関わってくれているという実感を得ることで、地域で暮らすことの安心を感じることができた。同様に他の地域でも同じような活動が行われていることを知る貴重な機会となり、視野を広げることができた。

次年度はどこに行ってみたい、どんなことをしてあげたいなど地域の一員として携わる自覚や喜びを感じることができていると考える。

## 活動の様子

八児市民センターでの様子：多国籍の ALT と異文化交流



星ヶ丘市民センターでの様子：手作りアロマ石鹸作り、昼食（カレー）、まとめレポート作成



## 地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

当日、交流事業への参加。班に入り子どもと共に活動したりまとめのレポート作成の支援を行った。

## 作成者

八幡西区役所コミュニティ支援課 地域・人づくり担当補佐 岡田 亜紀